

心のバリアフリーノート

指導上の留意点



心のバリアフリーノートの活用に当たって

本資料は、様々な心身の特性や考え方をもち人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、学び合い・支え合い・育ち合う関係を形成していくことを目的に、小学校、中学校、高等学校での教育活動に活用できるように作成したものです。

本資料においては、発達の段階や系統性を考慮し、小学校段階では障害の名称については触れず、困難さのある人という認識とし、中学校段階からの資料で障害の名称を取り上げるようにしました。

小学校段階における資料の特徴

小学校段階においては、障害のある人などに関するバリアについて目を向けることをきっかけとして、身近な生活の中にある様々なバリアについて気付くことができるような学習活動となるように構成しています。

(1) 教育課程上の位置付け

本学習の教育課程上の位置付けは、総合的な学習の時間における福祉や人権に関する学習活動と特別活動における学級活動の時間を活用することなどをイメージしています。特に、総合的な学習の時間では、児童の興味・関心に基づく課題や学校の特色を生かす活動との関連を図って授業を構想する必要があります。

(2) 内容構成

本資料は、授業の展開の手順を踏まえた「三つのパッケージ」と「コラム」と「学級経営に生かす視点」で構成しています。

- ①「パッケージⅠ」は、主に児童の身近に困っている人がいることに気付くことを中心として『知識・技能』の習得を図る学習過程としています。
- ②「パッケージⅡ」は、『知識・技能』をもとに、事例からバリアフリーについて『思考力・判断力・表現力』等の育成を目指す学習過程としています。
- ③「パッケージⅢ」は、パッケージⅠ、Ⅱの学習を踏まえ、身近な学級でのバリアフリーに向けた取組となるように『学びに向かう力・人間性等』の涵養を目指す学習過程としています。
- ④「コラム」では、障害のある人々の努力による偉業とともに、それを支えた人々との関わりについて取り上げました。
- ⑤「どの子ども安心して活躍できる学級経営の視点（例）」に関する資料は、学級担任としてどの児童にとっても学びやすい環境づくりを行うために大切な視点を取り上げたものです。

(3) 本資料の活用に当たっての留意点

本資料は、障害のある人についての理解を中心とし、障害の有無にかかわらず、誰に対しても「心のバリア」を解消できるようにすることを目指しています。

特に、学級の問題を扱う場合には、個々の児童の心情に十分配慮して、児童自身がよりよい学級、学校生活を築くことができるような指導に心がけ、人権教育上の配慮をして指導する必要があります。

» パッケージⅠ (バリアフリーに関する基本的な理解)

主に「総合的な学習の時間」での活用例

●障害やバリアに関する問題を自分事として理解する

【主に『生きて働く「知識・技能」の習得』】

学習活動	指導上の留意点 ★資料
1 イラストを見て、何に困っている人がいるのかを発表する。	<p>○イラストをもとに、様々な障害やバリアによって、社会の中に困っている人がいることに気付くようにする。</p> <p>★学習教材資料① (イラスト) (P2, P3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者 (階段)・車いす (高い品物展示) ・見えにくさ (障害物)・聞こえにくさ (音声アナウンス)
2 様々な違いのある人の人口比を知る。	<p>○人は多様で様々な違いがあるが、社会は多数を占める人のための社会になっていることに気付くようにする。</p> <p>★学習教材資料① (グラフ) (P2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢別人口の割合・日本人と外国人の割合 ・障害のある人の割合
3 困難さのある人には、どのような障害の種類があるのかを知る。	<p>○イラストを見て、様々な困難さがあるあることを知り、困難さの様子についても学習シートを活用して理解できるようにする。</p> <p>★学習教材資料② (イラスト) (P4, P5)・学習シート (P10)</p>
4 社会には大別して4つのバリアがあることを認識し、バリアフリーの大切さを考える。	<p>○イラストを見て、社会には大別して4つのバリアがあることを認識し、それらのバリアを解消するためにバリアフリーの大切さについて考えるようにする。</p> <p>★学習教材資料③ (イラスト) (P6, P7)・学習シート (P10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理的なバリア・制度的なバリア ・文化・情報面でのバリア・意識上のバリア
5 まちにあるバリアフリーの施設等について想起し、資料をもとに、様々な工夫がなされていることを知る。	<p>○まちにある身近なバリアフリーの施設等について想起し、駅の様子と乗り物の様子の資料を基に様々な工夫がなされていることを理解できるようにする。</p> <p>★学習教材資料③ (イラスト) (P8, P9)・学習シート (P10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅 (ホームドア・階段・エレベーター・エスカレーター・点字ブロック・案内表示等) ・乗り物 (鉄道・船・バス・タクシー・優先席等)
6 身近なところにあるバリアを取り上げ、その解決策を出し合って考える。	<p>○自分の身近なところにあるバリアを取り上げ、その解決策について互いの考えを出し合い、個々の努力で解決していこうとする意欲を高める。</p> <p>★学習シート (P10)</p>

» パッケージⅡ (バリアフリーについて考える学習)

主に「総合的な学習の時間」での活用例

●多様な違いを尊重し、相手の立場になって考える。

【主に『未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等の育成』】

学習活動	指導上の留意点 ★資料
1 「社会モデル」を理解する。	<p>○本人が努力をしても解決できない問題、場面でも、周囲の人の行動や環境を考えることで、みんなにとってよりよい生活が実現できることを知る。自分だけでなく、みんなにとってよりよい社会であることが大切であるという実感をもたせ、自分のこととして取り組める学習となるようにする。</p> <p>○本人が努力をしても解決できない問題について、社会ではどのような理解があるか、また、教室では、どのように環境を作れるかということを考えられるようにする。 ★学習教材資料④ (P12, P13)</p>
2 実態把握① 調べる。 (行動範囲、生活の中でどのようなサイン・シンボルマークがあるか、その意味を調べる)	<p>○いろいろな場所に目を向けて、いろいろなサインやシンボルマークの意味を知り、このような取組がなければどのような社会になるか、心がけがなければどうなるか考えることができるようにする。自分ごととして、バリアフリーの必要性について実感できるようにする。</p> <p>・障害者のための国際シンボルマーク・ベビーカーマーク ・耳マーク・ヘルプマークなど ★学習教材資料④ (P11)</p> <p>(参考)「障害ってどこにあるの?こころと社会のバリアフリーハンドブック(国土交通省)」 URL: http://www.mlit.go.jp/common/001250069.pdf</p>
3 実態把握② 共有する。	<p>○発表し合って、情報共有し、考えたこと、感じたことを交流する。</p>
4 自分ごととしてできることを考える。	<p>○自分ごととしてできることを考えるために、例えば、聴覚等に障害がある地域の方を招いて、普段の生活の様子を話してもらえるようにするなど、外部との連携を工夫したり、模擬体験をしたりすることも効果的である。</p>
5 事例をもとに、自分の考えを伝え合い、周囲がどう関わればよいか考える。	<p>○「Aさんの事例(聴覚障害)」の文章をもとに、共通の題材をもとに考えを深めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Aさんの事例(聴覚障害)」の文章をもとに、全員がAさんの立場を少しでも理解できるようにし、共通の題材として考えを深めるようにする。 ・この事例でAさんが困っていたことは、どのようなことなのかを再確認できるようにし、この問題の所在を明らかにできるようにする。 ・Aさんは困っていたのに、なぜそのことを言い出すことができなかったのか、個々の考えを出し合い、問題解決への糸口を見いだすようにする。 ・この問題について、自分がAさんの立場であれば、自分ならどうするかについて、複雑な心情に配慮しつつ、自分なりの考えを文章として書くようにする。 ・様々な意見を出し合い、自分を含めた周囲の人間がどのように関わり、どのような環境をつくっていくことが求められるかについて考えるようにする。 <p>★学習教材資料④ (P12)</p>

主に「学級活動」での活用例

●自分のできる具体的な行動目標を意思決定する。

【主に『学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」等の涵養】

学習活動	指導上の留意点 ★資料
<p>1 人と違うことによって、自分のやりたいことができないと感じるバリアについて考え、発表する。 (自分にとってのバリア)</p>	<p>○「人とはちがうところ」によって、自分のやりたいと思うことができないと感じることを書き出すことができるように多様な視点を提示する。何でも言いやすい雰囲気づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体格、体力の差 ・利き手の差 ・教科等の得意・不得意・不便さの有無 など <p>★イラスト・学習教材資料⑤ -1 (P15) ★学習シート設問1 (P14)</p>
<p>2 人との違いによるバリアの解決方法を考え、発表する。 (自分のバリア解決方法)</p>	<p>○「人とはちがうところ」によって、自分のやりたいことができないバリアを解決する方法を考え、発表できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力づくり ・周りの理解 ・自分の努力 ・創意工夫 など <p>★イラスト・学習教材資料⑤ -2 (P16) ★学習シート設問2 (P14)</p>
<p>3 今、クラスでバリアとなっている問題点を出し合う。 (クラスにとってのバリア)</p>	<p>○クラスのみんなにとって優しいクラスにするために、今、バリアとなっている問題点を出し合い、クラスにとってのバリアを考慮することができるようにする。</p>
<p>4 クラスにとってバリアがなく、優しいクラスにするために具体的に取り組んでいきたいことを話し合う。 (クラスのバリア解決方法)</p>	<p>○クラスのみんなにとって優しいクラスになるように、今、バリアとなっている問題点を解決するために、具体的に取り組んでいきたいことを出し合い、話し合うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活面 ・学習面 ・運動面 ・友人関係 など <p>★イラスト・学習教材資料⑤ -3 (P17) ★学習シート設問3 (P14)</p>
<p>5 自分としての具体的な行動目標を意思決定する。 (行動目標の意思決定)</p>	<p>○話し合いをもとに、自分としてクラスのバリア解決に向けて、これから取り組んでいきたいことを考え、行動目標として意思決定できるようにする。</p> <p>★学習シート設問4 (P14)</p>
<p>6 意思決定した行動目標を発表し合い、行動目標を再考する。 (意思決定の再考)</p>	<p>○個々の行動目標を発表し合い、仲間が意思決定した行動目標の発表を聞いて再考し、より強い意思決定となるように見直し、互いのよさを認め合う場を設定する。</p>
<p>7 意思決定した行動目標について、2週間程度で実践活動を行うことを確認する。 (意思決定の実践化)</p>	<p>○意思決定した具体的な行動目標を記入し、2週間程度で実践活動として行うことを確認する。実践意欲を高めるため、教師が称賛の言葉などを書くようにする。</p> <p>★学習シート設問4 (P14)</p>

どの子も安心して活躍 できる学級経営の視点（例）

環境整備

- ① 教室前面の掲示物は最小限にします。（学校教育目標・学級目標程度）
- ② 黒板には授業以外のものは貼らず、チョークの色使いに配慮します。（文字は白と黄色、赤は枠組み等）
- ③ 掲示物の下地となる色画用紙の色に配慮します。（グリーンやベージュなどの落ち着いた色）
- ④ 給食当番等の役割をわかりやすく表示します。（写真やイラストなどの表示）
- ⑤ 掃除用具の片付け方、活動の手順を具体的に提示します。（活動の過程を写真等で順に提示）
- ⑥ 机の配置場所が誰でもわかるようにします。（わかりやすい目印等の配慮）
- ⑦ 座席配置は教師が意図をもって行います。（視力、身長等を配慮し、全員が黒板を見やすいようにする）
- ⑧ ロッカー等の使い方を明確にします。（効率が良く、使いやすい配置の仕方の共有化）



組織づくり

- ① 協力して日直ができるようにします。（一人ではなく二人以上での担当）
- ② どの子も活躍できる場面リーダー制を活用します。（学級会での計画委員の輪番制など）
- ③ 生活班での役割を明確にします。（生活班での個々の役割を明確にし、リーダーは場面によって交代制）
- ④ 学級会の話合いで係活動を編成します。（学級会で合意形成を図り、全員が協働して活動できるような組織編成）
- ⑤ 当番活動の役割を明確にします。（給食や清掃当番での役割を明確にし、役割を定期的に交代）

授業づくり

- ① 正しい姿勢のモデルを示します。(正しい姿勢のイラストなどの掲示)
- ② 発表の仕方(話し方)を示します。「はい、～です。理由は～だからです。」など
- ③ 最小限の学習規律を示します。(話す時は「大きな声で・最後まで・順序よく」聞く時など)
- ④ 授業のめあてを明確に示します。「この時間のめあては、～です。」と話し、明確に板書)
- ⑤ 学習の流れと時間を示します。「課題、仮説、実験、発表、まとめ」などの流れと時間の提示)
- ⑥ 活動の手順を図で示します。(図画工作科や家庭科での活動の手順を写真やイラストで提示)
- ⑦ グループ学習では役割を明確にします。(司会、記録、まとめ、発表者等の役割と進め方の明確化)
- ⑧ 体育での励ましの言葉かけを確認します。(チームでナイスプレー、ドンマイ等の言葉かけの確認)
- ⑨ 半具体物を授業に取り入れます。(算数ではピザの模型などの半具体物を用いて、割り算や分数の学習を行う)
- ⑩ リコーダーに穴パッチシールを貼ります。(リコーダーの穴が見た目やさわり心地でわかるような工夫)
- ⑪ 音を視覚化できるようにします。「たん」と「うん」のカードをつなげたリズム遊び)
- ⑫ 授業での誤答を大切に扱います。(誤答が授業の内容を深めるよう、子供が発言しやすいような雰囲気づくり)

教師の言葉かけ

- ① 前置きして話します。(これから三つの話をします。一つ目は、二つ目は、三つ目は～)
- ② 肯定的な言葉をかけます。「～できなかったら～しない」ではなく「～したら～しましょう」)
- ③ 言葉をイメージ化します。「静かに廊下を歩きましょう」から「忍者になって廊下を歩きましょう」)
- ④ 具体的な指示を出します。(あっち、たくさん、ちゃんと)でなく、目的や終点、量や回数
の明確化)
- ⑤ 語調に変化をつけます。(声のトーン、抑揚、速さの変化への配慮)
- ⑥ 非言語動作を活用します。(アイコンタクト、OKサイン、動作やアクションの活用)
- ⑦ 繰り返しを活用します。(子供の発言をくりかえすことによる受容)
- ⑧ よい行為を具体的に褒めます。「○○がよくできていましたね」といった具体的な行為の
称賛)